
その刻僕は泣いていた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その刻僕は泣いていた

【Nコード】

N2505BA

【作者名】

【あらすじ】

一人の女性を想う、一人の男の話です。

(前書き)

初めて書く小説です。

まだまだ未熟ですが、宜しく願います。

風に舞う長い髪を、白く美しい手で、撫でるような仕種で払いながら、彼女は僕にそっと寄り掛かるようにキスをした。

「ありがとう」

僕は言った。心から。僕の思いが報われた事が、何よりも嬉しくて。

私の髪が伸び始めた頃、好きな人が出来ました。しかし、自分に自信が持てませんでした。特に目立って綺麗でも無く、才能があるわけでも無い私では、到底彼には適わないと思っていました。しかし、その思いが「思っていた」事になりました。一人の友達が、私にアドバイスをしてくれたからです。

初めて「おや？」と思った日の事だけど、彼女に「私に魅力がありますか？」って聞かれたとき、「心配無いよ、とても可愛いから」って答えてたら、とても嬉しそうだった。

僕も、嬉しかったよ。

自分に自信を持って、ぶつかってみました。そうしたら、彼は私の事を、一人の女性として見てくれました。またお礼いわなきや。相談にのってくれた友達に、

あの日を境に彼女は幸せそうで、それを見てみると、こっちまで
幸せな気分になる。

これが恋なんだなあ、と思った。

彼にばかり甘えていたので、今度は私からだと思って、決心し
て彼に会いに行きました。

彼女の顔を見るのは久しぶりだった。彼女は「この前はありがと
う」と言った。別にお礼なんかよかったけど、彼女の笑顔がやっぱり
嬉しかった。

彼に、欲しいものをプレゼントしようと思って、聞きました。で
も彼は、もう手に入れた、と答えました。

その理由を聞いたら、彼は私に

貴女の事が好きだから。一人の男として、一人の女性を愛して
いるからだよって答えた。

彼女は、とても驚いていた。

私には、彼の言っている意味が解りませんでした。ただ頭が真っ
白になって、尋ねました。「どうして？」と。

別に不思議がる事はないと思ったけど、彼女の予想外の反応が見られて、やっぱりどの顔も可愛いなあ、と思った。

自分はずっとそばにいられないのは残念だけど、きつと、これが一番なんだろう。

彼の気持ちを知って、その愛を知って、それでも私の思いは変えられなくて。
だから、

風に舞う長い髪を、白く美しい手で、撫でるような仕種で払いながら、彼女は僕にそっと寄り掛かるようにキスをした。

「ありがとう」

僕は言った。心から。僕の思いが報われた事が、何よりも嬉しくて。

なのに、僕は泣いていた。

彼は、嬉しくて泣いているんだよと言ったけど。

私も、哀しくて泣いていました。嬉しかったから、泣いていました。

あの日から随分経つけど、彼女からはよく、「今も幸せです。ありがとう。」と書かれた手紙が送られて来る。

だから、彼女の友達でいられて、

僕は、幸せだ。

(後書き)

本作品をお読み下さった方は、御評価頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2505ba/>

その刻僕は泣いていた

2012年1月6日13時53分発行